



公益社団法人

日本山岳・スポーツクライミング協会

2020年12月12日

【報告】CAS 仲裁判断について

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）がスポーツ仲裁裁判所（CAS）に対し、JMSCAによる2019年5月21日付「第32回オリンピック競技大会（2020/東京）におけるJOC推薦選手の選考について」と題する国内選考基準（以下単に「国内選考基準」）に基づき代表選考をすること求めておりました仲裁事案について、12月11日にCASより仲裁判断の通知を受けましたので、以下、ご報告を致します。

1. CAS 仲裁判断

JMSCAの請求を棄却する。ただし、仲裁費用は双方の負担とする。

2. JMSCAの今後の対応

JMSCAとしては、上記のCAS仲裁判断を受け入れ、第32回オリンピック競技大会（2020/東京）におけるJOCへの推薦選手を以下のとおりとします。

男子：榎崎智亜、原田海

女子：野口啓代、野中生萌

*IFSCクライミング世界選手権2019八王子で7位以内に入った日本人選手男女の上位2名の選手

JMSCAとしましては、国内選考基準に則り、日本代表選考ができるよう、CASにおける仲裁でベストを尽くしましたが、力及ばず、残念ながら我々の請求が容れられることはありませんでした。

CASへの提訴はスポーツクライミングの中央競技団体としてなすべきことをなしたと考えておりますが、国内選考基準によれば五輪出場可能性がある選手の五輪への道が絶たれてしまったこと、加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり選手をはじめ関係者の皆さまを長期間にわたり不安定な状況に置いてしまったことについて、深くお詫びを申し上げます。

以上